

## 社会学部報

### ◇受賞

室田保夫教授は社会事業史学会（於・東京都立大学）において、「第19回社会事業史文献賞」を受賞した。対象は『留岡幸助の研究』（1998 不二出版）。

### ◇学術講演会および研究会

- 2000年5月10日（水）（研究会例会）  
講師 大村 英昭 氏  
（社会学部 教授）  
「野の仏教と『民族のこころ』」
- 2000年5月31日（水）（研究会例会）  
講師 浅田 壽男 氏  
（社会学部 教授）  
「語順の研究に向けて」
- 2000年6月21日（水）（研究会例会）  
講師 木村真理子 氏  
（社会学部 助教授）  
「カナダ オンタリオ州における地域を拠点とした精神保健政策の発展：1960年代から1990年初頭まで」
- 2000年6月28日（水）（研究会例会）  
講師 J. W. Berry 氏  
（カナダ、クイーンズ大学教授）  
（カナダ研究客員教授）  
「Multiculturalism and Intercultural Relations in Canada」
- 2000年7月5日（水）（研究会特別例会）  
（法学部・社会学部共催）  
講師 David Lyon 氏  
（カナダ、クイーンズ大学社会学部教授）  
「Surveillance Society in an Information Age: Monitoring Everyday Life」  
（情報化時代における監視社会—日常生活を見張る）

### ◇社会学部教職員人権問題研修会

- 2000年5月31日（水）  
講師 榎本てる子 氏  
「HIV/AIDS—新しいこころみ バザール・カフェプロジェクト」
- '85 関西学院大学神学部卒

'88 カナダ ウォータールー・ルーサレン・セミナー大学院卒

'91 カナダ マニトバ大学附属病院ヘルスサイエンスセンターにて1年間チャップレン・インターンとして働く。

Canadian Association of Pastral Education Advanced Stage 修了  
現在同志社大学文学部社会学科社会福祉専攻 非常勤講師  
日本キリスト教団京都教区巡回教師  
バザール・カフェプロジェクト代表  
大阪市派遣エイズカウンセラー

### ◇海外出張

- 立木 茂雄 教授  
2000年3月18日から3月24日まで  
日米共同研究による都市地震災害の軽減に関する日米 Grantees Meeting 出席発表及び調査のため、アメリカへ。
- 木村 真理子 助教授  
2000年5月4日から5月14日まで  
世界精神科リハビリテーション協会会議で研究発表するため、フランスへ。
- 藤原 武弘 教授  
2000年7月6日から7月16日まで  
CICA (Coloquios Internacionales sobre Cerebro y Agresion) ならびに ISRA (International Society for Research on Aggression) 学会にて発表のため、スペインへ。
- 立木 茂雄 教授  
2000年7月8日から7月13日まで  
第25回自然災害ワークショップで研究発表のため、アメリカへ。
- ルース M. グルーベル 教授  
2000年7月15日から7月22日まで  
国際共同研究のため、カナダへ。
- 福地 直子 助教授  
2000年7月19日から7月28日まで  
XXVII International Congress of Psychology 参加のため、スウェーデンへ。  
7月28日から8月10日まで  
108回 American Psychological Association 学会発表のため、アメリカへ。

- 藤原 武弘 教授  
2000年7月21日から7月29日まで  
第27回国際心理学会にて発表のため、スウェーデンへ。
  - 藤戸 淑子 教授  
2000年7月26日から9月1日まで  
London University Birkbeck College Summer School 参加及び資料収集のため、イギリスへ。
  - 八木 克正 教授  
2000年7月27日から7月30日まで  
JSEP2000Seoul に出席のため、韓国へ。
  - 武田 丈 専任講師  
2000年7月28日から8月5日まで  
Joint Conference of the International Federation of Social Work and the International Association of Schools of Social Work での発表のため、カナダへ。
  - 木村 真理子 助教授  
2000年7月28日から8月29日まで  
国際社会福祉会議、カナダ精神保健協会全国会議に出席のため、カナダへ。
  - 岡田 弥生 助教授  
2000年8月2日から8月14日まで  
資料収集のため、イギリスへ。
  - 打樋 啓史 専任講師  
2000年8月14日から8月23日まで  
上ヶ原ハビタット学生ワークキャンプ引率のため、フィリピンへ。
  - 奥野 卓司 教授  
2000年8月20日から9月10日まで  
アメリカにおけるe-ビジネスの展開についての実態観察、面接調査のため、アメリカへ。
  - 大谷 信介 教授  
2000年9月1日から9月11日まで  
文部省科学研究費基盤研究(B)のイギリス社会調査動向調査のため、イギリスへ。
  - ルース M. グルーバル 教授  
2000年9月17日から9月28日まで  
オックスフォード大学ジョイント学生セミナーの引率のため、イギリスへ。
  - 川久保 美智子 教授  
2000年9月19日から9月26日まで  
中国人民大学交換研究員として、中国へ。
  - 真鍋 一史 教授  
2000年9月27日から10月8日まで  
社会科学の方法論に関する第5回国際会議に出席するため、ドイツへ。
- ◇新刊書紹介
- 難波 功士 助教授(分担執筆)  
「新しいメディアと広告」  
橋元良明 船津 衛 編  
『情報化と社会生活』北樹出版 2000. 2
  - 山本 剛郎 教授(共著)  
『現代インド社会の変動過程』  
ミネルヴァ書房 2000. 2
  - 佐々木 薫 教授(単著)  
『集団規範の実証的研究～拡充されたリターン・ポテンシャル・モデルの活用～』  
関西学院大学研究叢書 第94編  
関西学院大学出版会 2000. 3
  - 高坂 健次 教授(単著)  
『社会学における フォーマル・セオリー—階層イメージに関するFKモデル—』  
ハーベスト社 2000. 3
  - 難波 功士 助教授(単著)  
『「広告」への社会学』世界思想社 2000. 4
  - 難波 功士 助教授(分担執筆)  
「広告を文化研究するということ」  
吉見俊哉編『メディア・スタディーズ』  
せりか書房 2000. 4
  - 居樹 伸雄 教授(単著)  
『21世紀賃金大改革—仕事・業績重視賃金制度再設計への手引き—』社会経済生産性本部・生産性労働情報センター 2000. 5
  - 荻野 昌弘 教授(分担執筆)  
「文化とプラティック」  
碓井 崧・丸山哲央・大野道邦・橋本和幸(編)  
『社会学の理論』有斐閣ブックス 2000. 5
  - 武田 丈 専任講師(共著)  
『人間行動と社会環境—社会福祉実践の基礎科学—』ミネルヴァ書房 2000. 5
  - 荻野 昌弘 教授(分担執筆)  
「現代フランス社会学の潮流」  
情況2000年8月号別冊

現代社会学の最前線 [3]

『実践—空間の社会学：他者・時間・関係の基層から』情況出版 2000. 8

○高坂 健次 教授 (編著)

『日本の階層システム 6—階層社会から新しい市民社会へ—』東京大学出版会 2000. 8

○藤井 美和 専任講師 (共著)

『たましいのケア 病む人のかたわらに』いのちのこば社 2000. 9

## 学会消息

### ◇ドイツ・ボン大学アジア研究センター主催国際シンポジウム

- 『現代社会における人口動態と価値観の変容』  
標記シンポジウムがヨーロッパ、アメリカ合衆国、日本、韓国、台湾からの研究者を集めて2000年3月15日から17日にかけてボン大学本館において開催された。本学からは真鍋一史教授が招待され、「国際比較の視座からの日本人の価値志向」と題するプレゼンテーションを行うとともに、討論に参加した。

### ◇欧州評議会 (Council of Europe) 高等教育・研究委員会

- 第7回総会がフランス・ストラスブール欧州評議会本部において2000年3月28日から30日にかけて開催された。日本は米国、カナダ、イスラエル、メキシコとともにオブザーバー国となっている関係で本学の真鍋一史教授に外務省、そしてその外郭団体の(財)国際教育情報センターを通じて参加要請があり、真鍋教授は、センターの専門委員として総会に出席し、討論に参加した。討論のテーマは「公平と社会的結合のための生涯学習」「市民と大学」「社会科学と社会変動」「民主的市民のためのヨーロッパ研究」「情報通信技術と教育」「大学のルーツ」「南東ヨーロッパ(旧社会主義国)における高等教育」などと多彩であった。

### ◇ISSP (International Social Survey Programme)

- 2000年度研究会・総会がポルトガル・リスボン

の Metropolitan Lisboa Hotel において5月6日から10日にかけて開催された。本学からは真鍋一史教授が出席し、研究会において「日本人の価値志向における discrepancy、inconsistency、plurality」と題する研究発表を行うとともに、総会での調査票(質問紙)作成をめぐる討議に参加した。

### ◇日本出版学会

- 2000年度の日本出版学会春季研究発表会・総会は、2000年5月20日(土)、フェリス女学院大学(横浜市)で開催され、個人研究発表のほか、特別講演などが行われた。社会学部からは、芝田正夫教授が出席し、総会で理事に選出された。

### ◇日本キリスト教社会福祉学会

- 第41回日本キリスト教社会福祉学会大会が6月2日~3日の両日、弘前学院大学において開催された。シンポジウムの主題は「千年紀にキリスト教社会思想が人類にもたらしたもの」であった。本学の室田保夫教授はシンポジウムのパネリストとして出席した。

### ◇日本マス・コミュニケーション学会

- 2000年度春季研究発表会が、6月3日~4日の両日、関西大学高槻キャンパスで開かれた。今回のシンポジウムでは、「マス・コミュニケーション教育と大学教育」、「メディアと20世紀の文化~<関西>の視点から考える~」という二つのテーマが取り上げられたが、とりわけ前者では、今後のジャーナリズム教育の課題を考える上で興味のある問題点が示唆された。第2日の午後には、7つのテーマごとに、ワークショップが開かれたが、放送研究部会では、スポーツのイベント化と放送権の高騰という最近の日本での状況を踏まえ、「スポーツ放送の商業化と公共性」をめぐるドイツとEUの対応を参照にしながら、スポーツと放送をめぐる幅広い議論が行われた(放送研究部会担当 石川明)。

◇ドイツ・ボン大学日本文化研究所主催国際シンポジウム

○『日本人と酒』

標記シンポジウムが6月3日ボン大学本館で開催された。司会者はJ・クライナー、ボン大学教授で、発表者として国立民族学博物館石毛直道館長、小山修三教授、熊倉功夫教授、スタンフォード大学ベフ・ハルミ名誉教授とともに本学の真鍋一史教授が招かれ、「統計的データから見た日本人と酒」と題する発表を行い、討論に参加した。

◇日本社会学史学会

○日本社会学史学会大会が、2000年6月24日（土）、25日（日）の両日、滋賀大学において開

催された。本学からは、シンポジウム「20世紀社会学を統括するⅡ—20世紀中期の社会学」において荻野昌弘教授が「1920～50年代のフランス社会学」と題する報告を行い、高坂健次教授がシンポジウムのコメンテーターをつとめた。

◇国際分類学会（IFCS : Data Analysis Classification and Related Methods）

○2000年度研究大会が2000年7月11から14日にかけてベルギーのナミュール大学で開催された。本学からは真鍋一史教授が出席し、「ナショナル・アイデンティティの構造：仮説的図式にもとづくISSPの質問諸項目の分類」と題する研究発表を行なった。

執筆者紹介 (掲載順)

真鍋一史	関西学院大学社会学部教授	藤原苗	関西学院大学大学院社会学研究科博士課程後期課程
Wolfgang Jagodzinski	ドイツ・ケルン大学社会学部教授	福永英彦	平安女学院大学現代文化学部助手
藤原武弘	関西学院大学社会学部教授	藤田讓	関西学院大学大学院社会学研究科博士課程後期課程
難波功士	関西学院大学社会学部助教授		

社会学部研究会会員

会長	高坂健次				
運営委員	高春大	名谷信介	石川明	奥野卓司	大和三重
会計監査書記	中山慶一郎	中速水幸一	紺田千登史		
名誉会員	張半倉宮西領武	田一和満朗穰建	遠藤惣一	船本弘毅	小関藤一郎博秀一郎重夫貞夫
			J. A. ジョイス		津金澤聰廣
			牧正英満		
			村川美瑳子		
			西山方		
			杉原國夫		
			田中		
	(A. B. C 順)				
普通会员	佐々木薫	森川甫	中真山慶一郎		
	春名純人	紺田千登史	真鍋一史		
	山路勝彦	山本剛郎	高田真治		
	荒川義子	安藤文四郎	浅野仁		
	高坂健次	石川明	對馬路人		
	芝田正夫	芝野松次郎	藤原武弘		
	宮原浩二郎	藤戸淑子	立木茂雄		
	田中耕一	居樹伸雄	八木克正		
	奥野卓司	久保田稔	大谷信介		
	川久保美智子	R. M. グルーベル	室田保夫		
	A. ブレイディ	荻野昌弘	三浦耕吉		
	大村英昭	浅田壽男	岡田弥生		
	福地直子	難波功士	木村真理子		
	大和三重美和	阿部潔	野波寛史		
	川島恵美	池埜聡	打樋啓史		
	藤井美和	武田丈			

## 関西学院大学社会学部研究会会則

### 第1章 総 則

#### 第1条

本会は関西学院大学社会学部研究会と称する。

#### 第2条

本会は本学部における社会学と関連諸科学の教育・研究の推進を計ることを目的とする。

#### 第3条

本会は事務局を西宮市上ヶ原一番町1—155関西学院大学社会学部内におく。

### 第2章 事 業

#### 第4条

本会は第2条の目的を達成するために次の事業を行う。

1. 研究会などの開催
2. 機関誌「関西学院大学社会学部紀要」などの刊行
3. 会員相互の研究・教育に関する連絡および協力
4. 本学部の教育・研究に対する協力
5. 国内外関係諸学会との協力
6. その他本会の目的を達成するために必要な事業

### 第3章 会 員

#### 第5条

本会の会員は次のとおりとする。

1. 名誉会員 本会に功労のあったもので、本会の推薦するもの
2. 普通会員 本学社会学部専任の教授、助教授、講師および助手
3. 賛助会員 本会の趣旨に賛同するもの

### 第4章 運営組織

#### 第6条

第2章記載の事業を行うため、本会には以下の委員、委員会等をおく。

1. 会長は当該年度の社会学部長とし、本会には以下の委員、委員会等をおく。
2. 運営委員（6名）：運営委員は普通会員の中から互選し、運営委員会を構成する。
3. 運営委員長（1名）と会計（1名）：運営委員長と会計は運営委員の中から互選する。
4. 運営委員会は第4条に記された事業の企画・運営にあたる。

なお、機関誌「社会学部紀要」の編集については運営委員会内に複数の委員をもって構成される編集委員会を置く。編集委員長は、運営委員長が兼ねることがある。

5. 会計監査（2名）：会計監査は普通会員の中から互選する。
6. 書記は社会学部事務長に委嘱する。

第 7 条

本研究会委員の任期は2年とする。重任を妨げない。

## 第5章 総 会

第 8 条

総会は定期総会と臨時総会とし、会長が主宰する。定期総会は毎年一回開催され、臨時総会は会長が必要と認めたとき、あるいは普通会員の1/2以上の要求があった場合に開催される。議決は出席者の過半数をもって行う。

第 9 条

総会の承認を必要とするものは第6条第1項のほか、次の事項とする。

1. 事業計画および収支予算
2. 事業報告および収支決算
3. その他運営委員会において必要と認めた事項

## 第6章 会 計

第 10 条

本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第 11 条

本会の経費は次の収入をもってあてる。

1. 会 費  
普通会員年額 31,200円  
賛助会員年額 10,000円
2. 寄付および補助助成による金品
3. その他の収入

第 12 条

本会員および本学社会学部大学院学生・大学院研究員並びに学部学生は機関誌の配布を受ける。学生の購読費は年間2,600円とする。

## 付 則

第 1 条

本会の事業運営に必要な諸規定は、運営委員会の議を経て別に定めることができる。

第 2 条

本会の会則変更および本会の解散、ならびに、これに伴う財産の処分等については、総会において、出席者の2/3以上の同意を得ることを要する。

第 3 条

本会則は1992年4月1日より施行する。

## 「社会学部紀要」編集内規

1992年4月1日施行  
1996年10月23日改正  
1999年4月14日改正  
2000年10月4日改正

1. 「社会学部紀要」（以下、本紀要という）は原則として、当該年度中に2回発行する。退職者の記念号を刊行する場合はこの限りでない。通常の年二回刊行の場合は、原稿締切日を6月末日とする号は11月上旬の配付。11月末日とする号は3月下旬の配布を目標とする。名誉博士号授与の場合は、特別記念号を刊行する。
2. 本紀要の企画、編集、発行は社会学部研究会「社会学部紀要」編集委員会が行う。
3. 本紀要に掲載される原稿の種類は以下に掲げるものとする。
  - ①原著
  - ②研究ノート
  - ③学部及び社会学部研究会主催、共催の講演会の講演原稿
  - ④書評、内外の学術研究、学術集会の動向の紹介
  - ⑤社会学部最優秀卒業論文賞（安田賞）受賞論文
  - ⑥その他編集委員会が必要と認めた記事
4. 本紀要への投稿有資格者は社会学部研究会名誉会員、並びに普通会员とする。なお、共同執筆者は名誉会員あるいは普通会员の推薦を受けた者、名誉会員あるいは普通会员と共同研究を行った者とする。
 

上記以外の投稿者に関しては普通会员による推薦と編集委員会の審査を経て2名を限度として掲載することができる。

大学院学生並びに研究員単独の論文原稿の掲載に関しては、普通会员による推薦と編集委員会の審査を経て決定する。

退職記念号については、学外者2名まで寄稿を依頼することができる。
5. 原稿の執筆に際しては、以下の様式に従うものとする。
  - ①原著については、原則として図表、写真を含めて200字詰め原稿用紙100枚以内、研究ノートについては、原則として図表、写真を含めて200字詰め原稿用紙60枚以内とする。ワードプロセッサによる原稿については字数においてそれらに相当する分量とする。
  - ②手書き原稿に用いる原稿用紙は研究会指定の200字詰め横書き原稿用紙とする。
  - ③図表、写真等は題字、説明付きですべて本文とは別紙とし、本文中に挿入する箇所を本文欄外に指示すること。
 

図表、写真等の費用は50,000円を限度として社会学部研究会が負担するが、それを超える分は執筆者の負担とする。
  - ④原稿には和文及び英文の表題、更に欧文のアブストラクトをつける。また執筆者名、所属機関名についても同様とする。
  - ⑤原稿に3語のキーワードをつける。
6. 原稿の提出については、完全原稿を、チェック済みのアブストラクトと共に、期日までに提出するものとする。
7. 本紀要に発表する原著論文、研究ノートは他に未発表のもの、または学会大会等での口頭発表の主題をその学会等の了解のもとに原稿にまとめたものに限られる。
8. 外国語による原稿については編集委員会において審議の上、許可することがある。分量は日本語原稿の場合に準ずるものとする。



## 9. 原稿言語校閲及び謝礼について

- ① 欧文のアブストラクトの原稿校閲については、執筆者本人より校閲者に校閲を依頼し、事後「社会学部紀要アブストラクト原稿校閲（ネイティブ・チェック）に関する報告書」（書式用紙による）を提出する。校閲者への謝礼の金額については研究会運営委員会で定めるものとする。
  - ② 欧文で論文を掲載する場合の原稿言語校閲については、執筆者本人より校閲者に校閲を依頼し、事後「社会学部紀要欧文原稿言語校閲（ネイティブ・チェック）に関する報告書」（書式用紙による）を提出する。校閲者への謝礼の金額については研究会運営委員会で定めるものとする。
  - ③ 編集委員会が依頼した外国語原稿を日本語に翻訳して掲載する場合には、その翻訳者に対し翻訳料を支払うものとする。その金額については社会学部研究会運営委員会で定めるものとする。
10. 本紀要に掲載された論文等は無断で他の雑誌等に転載することを禁ずる。また、執筆者が既に外国語または日本語で発表した論文等を日本語または外国語に翻訳して掲載を希望する場合には、編集委員会において審議の上、それを許可することがある。ただし、この場合、著作権処理に関する責任は全て執筆者が負うものとする。その場合の翻訳料は支払わない。
  11. 本紀要の執筆者に対しては本誌1部と抜刷100部を無料で配布する。ただし、それ以上の抜刷を希望する場合、その実費は本人の負担とする。
  12. 発行された紀要は名誉会員、普通会員、大学院学生、大学院研究員及び学生に配布する。その年度の非常勤講師にも配布する。また、本紀要は上記以外の者に頒布することができる。なお、頒布料は原則として学生の購読料と同額とする。
  13. この編集内規は研究会運営委員会の議を経て変更することがある。ただし、その変更はその年度の社会学部研究会総会で報告されなければならない。

---

＜編集後記＞

---

今夏はことのほか厳しい暑さでありました。その暑さも漸く過ぎ去り、研究会会員は、それぞれの夏休み期間の研究と研修の成果を携えて再会し、秋学期の活動が始まりました。「社会学部紀要」第88号をお届けいたします。この号が実際にお手元に届く頃には、秋も深まって、美しい季節が到来していることと思います。昨年度は退職者記念号が相次ぎ、異例にも、5冊の紀要を発行しました。それで今回の原稿の集まりを少し危惧していましたが、多くの力作が寄せられて刊行できましたことを喜んでいきます。会員の大きな著作も相次いで刊行されており、社会学部研究会会員の活発な研究活動に瞠目させられています。研究会運営委員会の活動のもう一本の柱であります研究会例会の開催も、主として新任の専任会員による研究発表が、社会学部報に記載されている通り、順調に、かつ充実してなされました。皆様のご協力を感謝します。

特筆すべきことの一つは、社会学部紀要の新刊行分およびバックナンバーのホームページによるデータベース化を進めていることです。現在、この号からさかのぼって第64号までを終了しています。これで社会学部研究会会員の業績に学外や海外からのアクセスも容易になると思います。

最後に編集の実務を担当して下さっている湯原陽里香主事には今回も大変お世話になりました。記して篤く感謝を申し上げます。 (春名純人)

---

2000年10月20日 印刷

2000年10月30日 発行

編集発行人 高坂健次

発行所 関西学院大学社会学部研究会

〒662-8501 西宮市上ヶ原一番町

関西学院大学社会学部内

電話(0798)(54)6202

印刷所 尼崎印刷株式会社

〒661-0957 尼崎市下坂部3丁目9番20号

電話(06)6494-1122(代)

**KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY**  
**SCHOOL OF SOCIOLOGY JOURNAL**

—Until No.87, March 2000, SOCIOLOGY DEPARTMENT STUDIES—

(SHAKAIGAKUBU-KIYO, KWANSEI GAKUIN DAIGAKU)

---

No. 88

October 2000

---

---

The School of Sociology Study Association

**KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY**

Nishinomiya, Japan

---